

# 経営比較分析表

埼玉県 越谷・松伏水道企業団

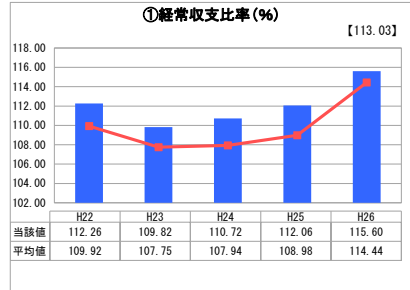
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A1
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	71.44	99.99	2,754

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
365,155	76.44	4,777.01

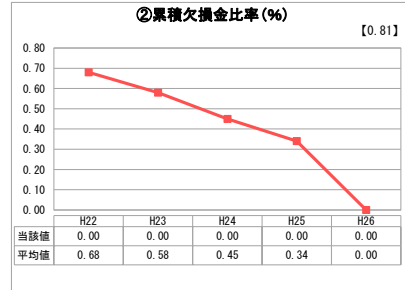
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

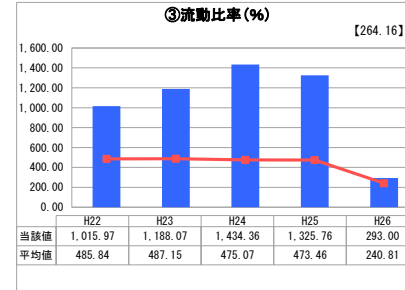
## 1. 経営の健全性・効率性



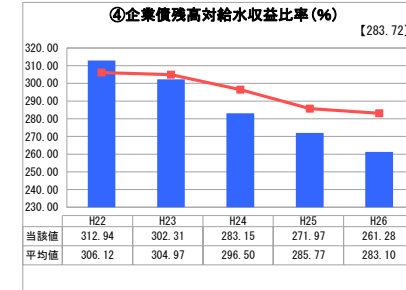
「経常損益」



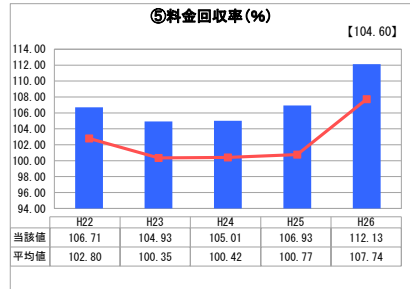
「累積欠損」



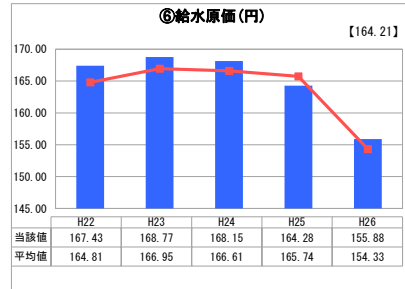
「支払能力」



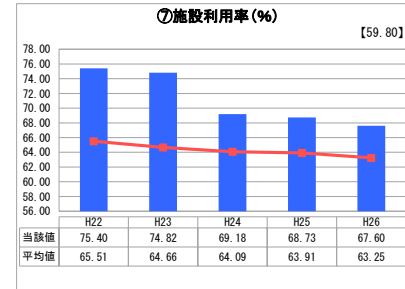
「債務残高」



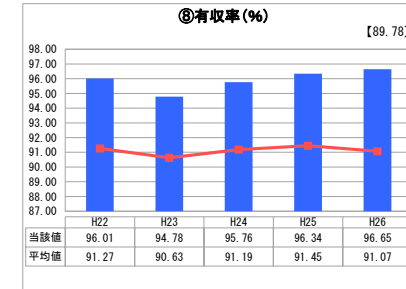
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

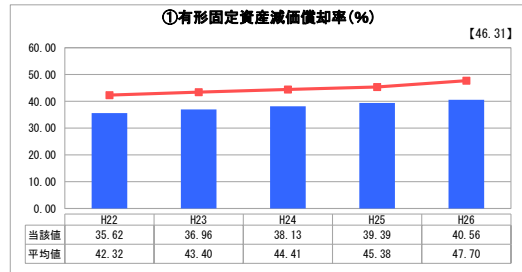


「施設の効率性」

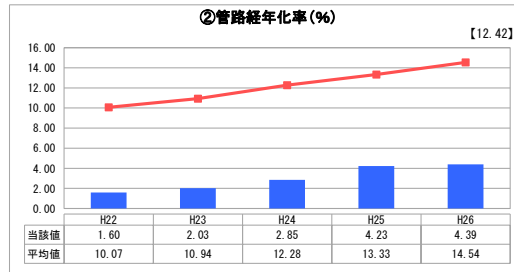


「供給した配水量の効率性」

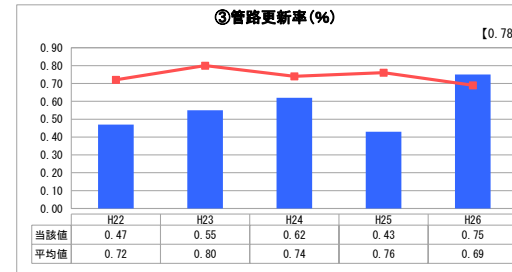
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

・給水原価は、類団平均値よりも高いものの、料金回収率は類団平均値を上回り、経常収支比率にもそれが反映されている。現段階においては経営の健全性は確保されている。

・施設利用率は、水需要の減少と共に低下する傾向にあり、水道施設の更新の際にはダウンサイジングやスペックダウンを考慮し、さらなる水需要の減少に備えるべく計画的な対応を検討していく。

・有収率は高水準を維持しており、効率的な水道事業が行えている。

### 2. 老朽化の状況について

類団平均値と比べ、管路の老朽化は進んでいないことが伺え、そのため管路更新率は平均を下回っていた。今後は、経年化を迎える耐震性の低い管路が多くなることを見込まれるため、アセットマネジメントに基づく効率的な更新による強靱な水道の構築を進めていく。

## 全体総括

今後も水需要の減少が見込まれるが、ライフラインであり、社会生活と経済活動に欠かすことのできない水道を強靱かつ健全な状態で次世代に引き継いでいくため、より効率的な水道事業経営に努めていく。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。